

PART-1 平成 28 年 3 月卒業・修了予定者アンケート調査集計結果

目的：卒業・修了予定者アンケート調査は、教育の質保証の視点から卒業生に対して各学部の学士課程における学習成果、大学院修了者に対して大学院課程における知識・能力の修得度合い等について調査し、教育目標・教育プログラムの教育効果の検証に資することを目的とする。

調査方法：平成 28 年 3 月卒業生・修了生を対象にカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーおよび修得すべき知識・能力について、別紙アンケート調査を実施した。

調査期間：平成 28 年 2 月から 3 月の学位記授与式当日までの期間中に学部・研究科別に実施した。

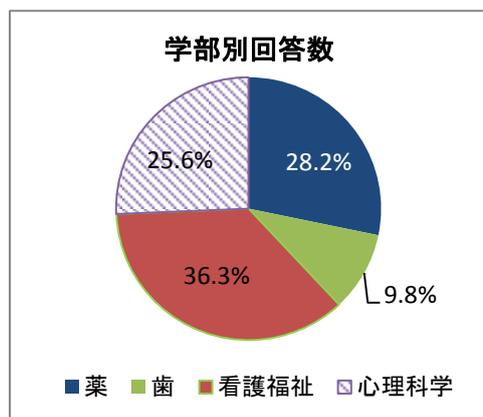
回答率：大学（学部・学科）の回答率は 76.9%で、大学院の回答率は 86.7%であった。

I. 大学・学部

■回答率

学部・学科		卒業生数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
薬学部	薬学科	112	98	87.5
歯学部	歯学科	40	34	85.0
看護福祉学部	看護学科	118	91	77.1
	臨床福祉学科	73	35	47.9
心理科学部	臨床心理学科	68	50	73.5
	言語聴覚療法学科	40	39	97.5
大学全体		451	347	76.9

■学部別回答数（n=347）



1. 調査概要

■学士課程教育において修得すべき知識・能力

「専門知識、技術」「倫理観」「協調性」等、修得すべき知識・能力として特に重視している項目について、全ての学部で概ね成果があった。

○「修得すべき知識・能力」：「A 幅広い教養」「B 豊かな人間性」「C 専門知識、技術」「D 倫理観」「E 自己研鑽能力」「F 協調性」「G コミュニケーション能力」「H 自主性・創造性」「I 地域的・国際的な視野」「J 語学力」「K 情報処理技能能力」

○選択肢「4. 身についた 3. 概ね身に付いた 2. あまり身に付かなかった 1. 身に付かなかった」

下記の通り、「4 身について」と「3 概ね身について」と回答した比率の合計で各項目を比較すると、「専門知識、技術」「倫理観」「協調性」など、各学部が修得すべき知識・能力として特に重視している項目について、非常に高い割合となっていた。ただし、11 項目のうち、「J 語学力」「I 地域的・国際的な視野」「K 情報処理技能能力」の3項目については、学部によって若干の際はああるものの総じて比較的低い数値となった。

○学部別上位3項目（下表参照）

薬学部：「C 専門知識、技術」「D 倫理観」「E 自己研鑽能力」「F 協調性」（同率2位3項目）

歯学部：「C 専門知識、技術」「D 倫理観」（同率1位2項目）「A 幅広い教養」「B 豊かな人間性」「E 自己研鑽能力」「F 協調性」「G コミュニケーション能力」（同率3位5項目）

看護福祉学部：「D 倫理観」「F 協調性」（同率1位2項目）「B 豊かな人間性」「C 専門知識、技術」「G コミュニケーション能力」（同率3位3項目）

心理学部：「C 専門知識、技術」「G コミュニケーション能力」「D 倫理観」

○学部別下位3項目

薬学部：「K 情報処理技能能力」「I 地域的・国際的な視野」「J 語学力」

歯学部：「I 地域的・国際的な視野」「K 情報処理技能能力」「J 語学力」

看護福祉学部：「K 情報処理技能能力」「I 地域的・国際的な視野」「J 語学力」

心理学部：「K 情報処理技能能力」「I 地域的・国際的な視野」「J 語学力」

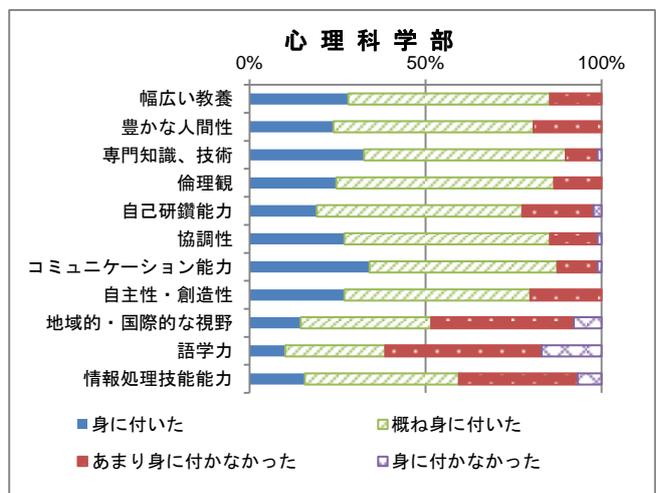
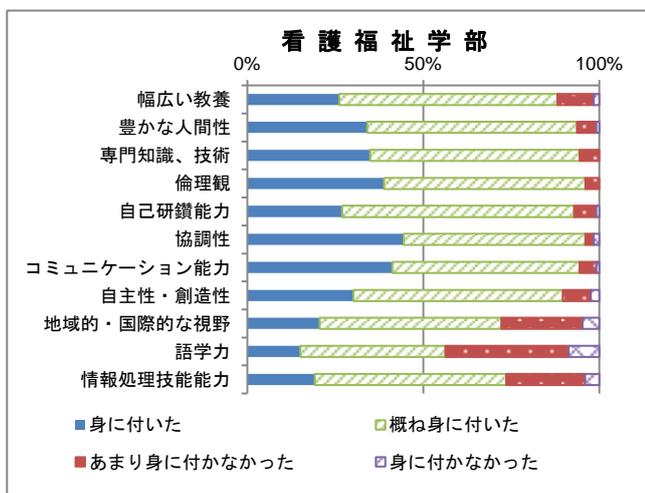
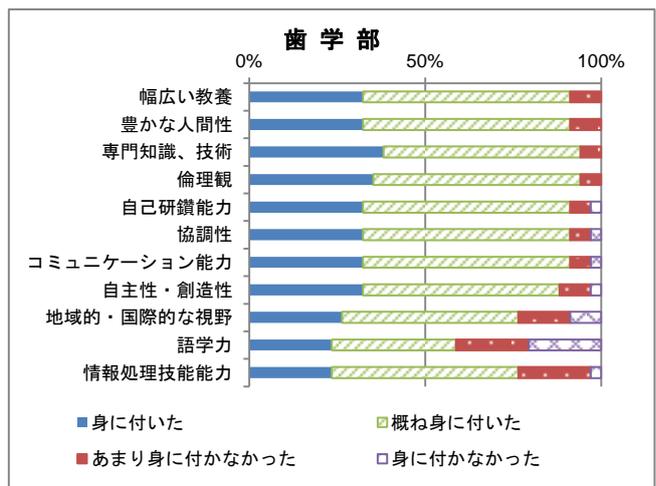
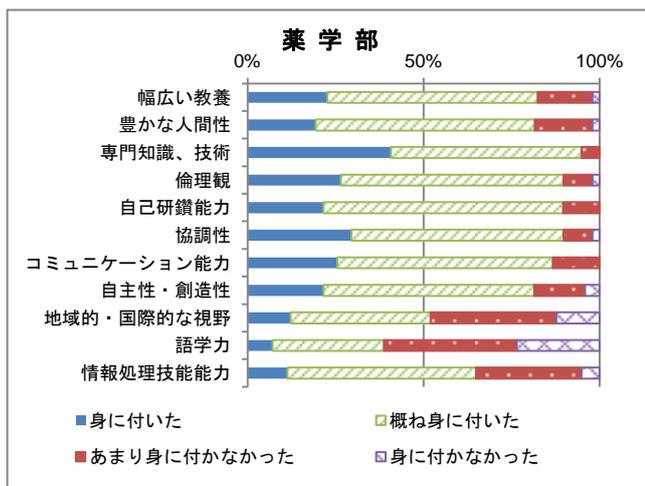
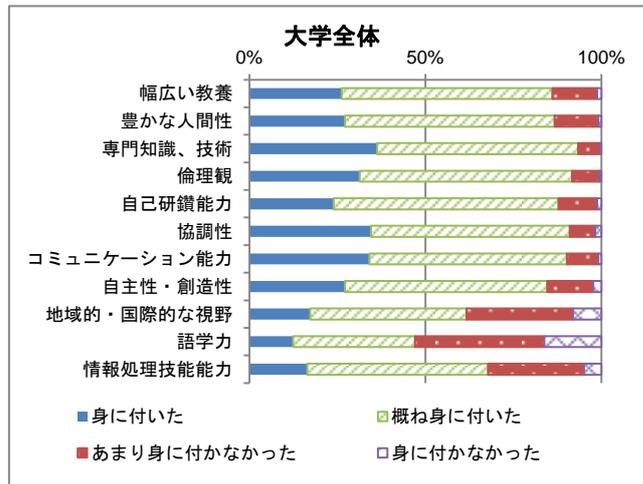
○学部別・比率順一覧（単位：％）

薬学部		歯学部		看護福祉学部		心理学部	
C 専門知識、技術	95	C 専門知識、技術	94	D 倫理観	96	C 専門知識、技術	90
D 倫理観	90	D 倫理観		F 協調性		G コミュニケーション能力	88
E 自己研鑽能力		A 幅広い教養	91	B 豊かな人間性	94	D 倫理観	87
F 協調性		B 豊かな人間性		C 専門知識、技術		A 幅広い教養	85
G コミュニケーション能力	87	E 自己研鑽能力		G コミュニケーション能力		F 協調性	
A 幅広い教養	82	F 協調性		E 自己研鑽能力	93	B 豊かな人間性	81
B 豊かな人間性		G コミュニケーション能力		H 自主性・創造性	90	H 自主性・創造性	80
H 自主性・創造性	81	H 自主性・創造性	88	A 幅広い教養	88	E 自己研鑽能力	78
K 情報処理技能能力	65	I 地域的・国際的視野	76	K 情報処理技能能力	74	K 情報処理技能能力	60
I 地域的・国際的視野	52	K 情報処理技能能力		I 地域的・国際的視野	72	I 地域的・国際的視野	52
J 語学力	39	J 語学力	59	J 語学力	56	J 語学力	39

PART-2 の卒業生・修了生アンケート調査結果では、「在学中にもっとしておけばよかったこと、身につけたかった能力」として「語学力」と回答した卒業生が 19.6%と2番目に多く、また「在学中に身につけた知識・能力」の質問に対して「語学力」「IT活用能力」「地域的・国際的な視野」がそれぞれ5%前後と低く、上記内容と対応する結果となっている。

なお、修得すべき知識・能力として各学部が掲げている「地域的・国際的な視野」については、全ての学部で「地域連携」を全学教育科目として開講しており、また、平成27年度から薬学部で新

カリキュラムが施行され、国際的視野を持つ医療人育成のため「グローバルコミュニケーション」(全学年対象)を、地域社会に貢献できる医療人養成のための「医療福祉活動演習」(2年～6年対象)をそれぞれ開講している。次に「語学力」については、全学部を対象とする語学研修の実施、歯学部における英語教育の充実や学生の海外提携大学への派遣に取り組んでいる。また、看護福祉学部は地域と国際社会において活躍できる能力を養うことを目指しカリキュラムを編成している。心理学部は、基礎教育で上級学年にも英語科目を配当する等、外国語科目に力を入れている。今後の調査で、これらの教育の成果が具体的な数字としても表れることを期待する。



■授業科目の満足度

全学教育科目は、歯学部・看護福祉学部・心理科学部で満足度が高かった。

専門教育科目は、全学部で満足度が高かった。

1. 全学教育科目-「教養教育」「基礎教育」「医療基盤教育」の3つの分野で構成

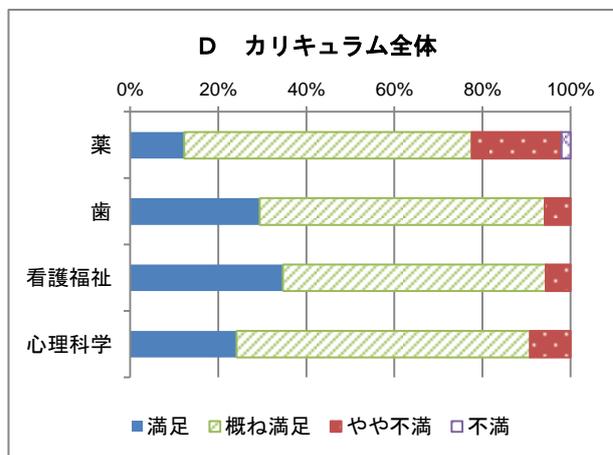
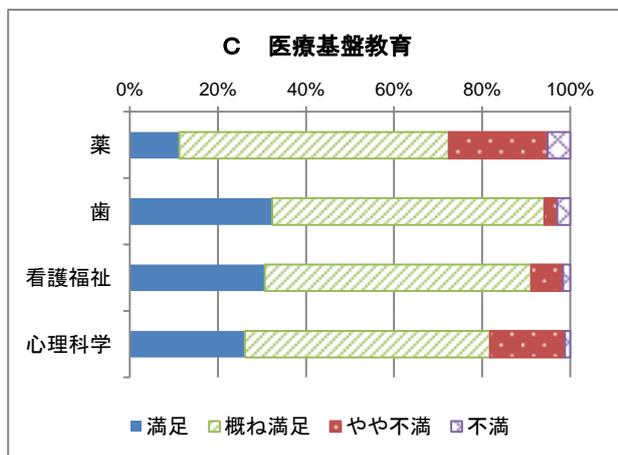
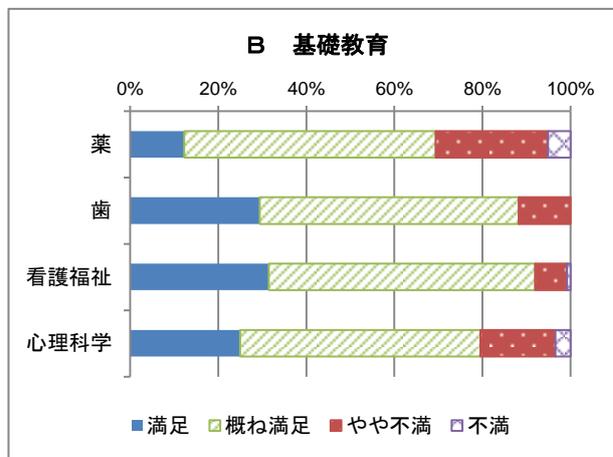
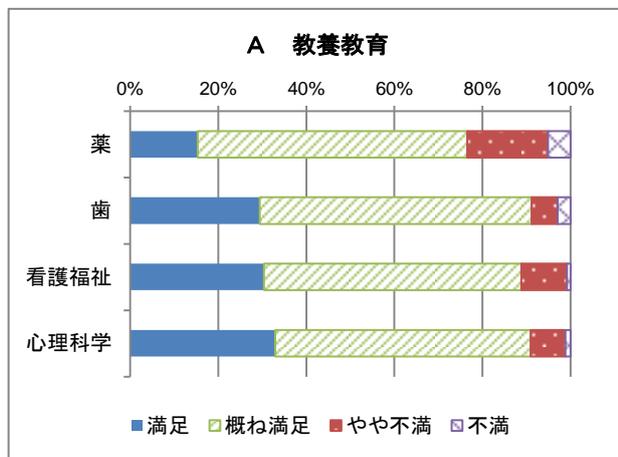
○項目「A 教養教育」「B 基礎教育」「C 医療基盤教育」「D カリキュラム全体」

○選択肢「4. 満足」「3. 概ね満足」「2. やや不満」「1. 不満」

「満足」と「概ね満足」と回答した人数の割合（以下、「満足度」と表記）は、下表のとおりである。カリキュラム全体としては歯学部、看護福祉学部および心理科学部は90%以上と満足度が高いが、薬学部はすべての分野で他学部と比較して低く、「2. やや不満」と「1. 不満」の比率が22.4%であった。

(単位：%)

学部等	項目	A 教養教育	B 基礎教育	C 医療基盤教育	D カリキュラム全体
大学全体		86.1	82.0	83.7	88.6
薬学部		76.5	69.4	72.4	77.6
歯学部		91.2	88.2	94.1	94.1
看護福祉学部		88.8	91.9	89.7	94.4
心理科学部		90.9	79.5	80.9	90.8



2. 専門教育科目

○項目 各学部の専門教育科目の分類による。

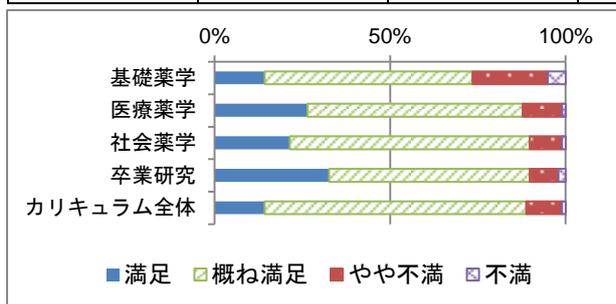
○選択肢「4. 満足」「3. 概ね満足」「2. やや不満」「1. 不満」

「4. 満足」と「3. 概ね満足」と回答した割合は、下記の各表のとおりである。全学部でカリキュラム全体としての授業内容の満足度は高い比率であった。

●薬学部

カリキュラム全体としての授業内容の満足度は 88.8%であったものの、基礎薬学科目の満足度はおよそ 74%と他の項目と比較して低かった。

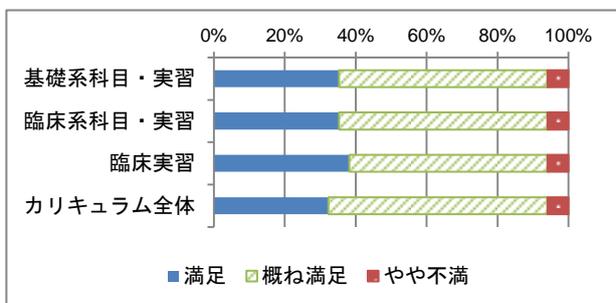
A 基礎薬学	B 医療薬学	C 社会薬学	D 卒業研究	E カリキュラム全体
73.5	87.8	89.8	89.8	88.8



●歯学部

カリキュラム全体及び分野別の授業内容の満足度はいずれも 94%と高く、“不満”という回答はゼロであった。

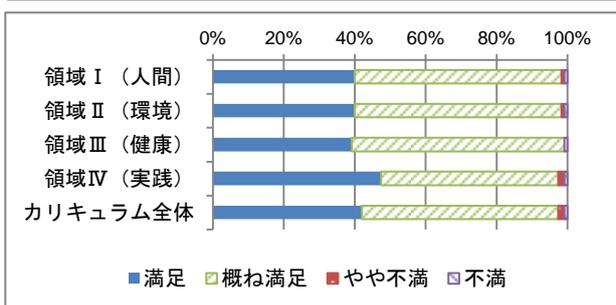
A 基礎系科目・実習	B 臨床系科目・実習	C 臨床実習	D カリキュラム全体
94.1	94.1	94.1	94.1



●看護福祉学部

カリキュラム全体・分野別の授業内容の満足度はいずれも 95%以上と高かった。

A 領域Ⅰ(人間)	B 領域Ⅱ(環境)	C 領域Ⅲ(健康)	D 領域Ⅳ(実践)	E カリキュラム全体
98.3	98.3	99.2	97.5	97.5

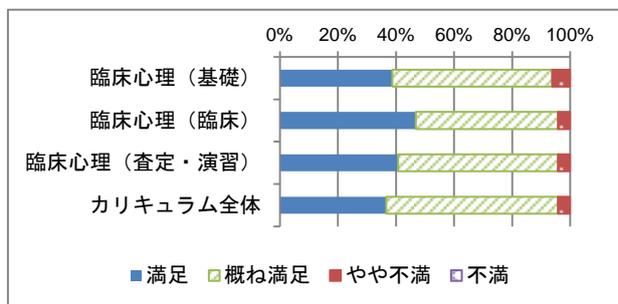


●心理科学部

ア) 臨床心理学科 (n=50)

カリキュラム全体・分野別の授業内容の満足度はいずれも93%以上の高い割合となっていた。

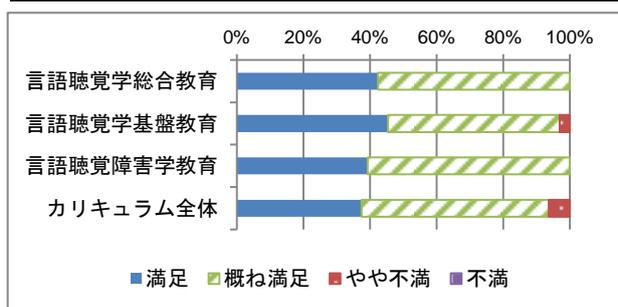
A 臨床心理 (基礎)	B 臨床心理 (臨床)	C 臨床心理 (査定・演習)	D カリキュラム全体
93.9	95.9	95.9	95.9



イ) 言語聴覚療法学科 (n=39)

カリキュラム全体の満足度はおよそ94%であり、分野別ではいずれも95%以上と非常に高い割合となっていた。

A 言語聴覚学総合教育	B 言語聴覚学基盤教育	C 言語聴覚障害学教育	D カリキュラム全体
100.0	97.0	100.0	93.8

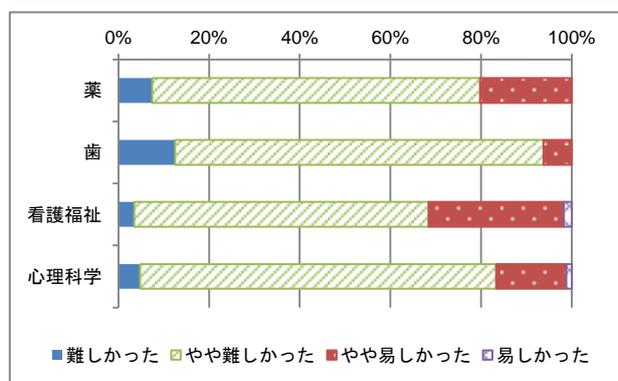


■教育プログラムの水準

○選択肢「4. 難しかった」「3. やや難しかった」「2. やや易しかった」「1. 易しかった」

「4. 難しかった」と「3. やや難しかった」と回答した比率は、下表のとおりとなっており、歯学部で比較的高い割合となっていた。

薬学部	歯学部	看護福祉学部	心理科学部
79.8	93.8	68.4	83.3



■自由記載(件数)

	「修得すべき知識、能力」 の他に身に付けた成果	授業内容・カリキュラムの 良い点・不満な点	教育内容や大学への要望
薬学部	8	23	24
歯学部	1	0	1
看護福祉学部	7	4	10
心理科学部	10	4	3

II. 大学院・研究科

■回答率

大学院・研究科		修了生数（人）	回答者数（人）	回答率（％）
薬学研究科	薬学専攻（博士）	1（博士）	1	100
歯学研究科	歯学専攻（博士）	10（博士）	7	70.0
看護福祉学研究科	看護学専攻	15（修士）	13	86.7
	臨床福祉学専攻	2（修士）	1	50.0
心理科学研究科	臨床心理学専攻	11（修士）	11	100
		3（博士）	3	100
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	3（修士）	3	100
大学院全体	修士・博士前期課程	31	28	90.3
	博士・博士後期課程	14	11	78.8

1 大学院の調査概要

■修士課程と博士課程別の修得すべき知識・能力

問2で在学中、「大学院課程教育において修得すべき知識・能力」がどの程度身についたか質問した。

○修得すべき知識・能力 下記の表参照

○選択肢

「4. 身についた」「3. 概ね身についた」「2. あまり身につかなかった」「1. 身につかなかった」

修士・博士それぞれの課程で修得すべき知識・能力として各研究科で特に重視している項目について、概ね成果があった。

修士課程では修得すべき知識・能力について、概ね修得された。学部の結果と同様に「F 国際的な視野」が57.1%（看護福祉学研究科9名・リハビリテーション科学研究科2名・心理科学研究科1名）と低く、「C チーム医療への対応」も78.6%であった。一方、自己研鑽能力が「4. 身についた」とする回答者が多く成果が表れている。博士課程では、全ての項目で高い比率となっており、成果があった。

(1) 修士課程修了者（n=28）

知識・能力 \ 評価	4	3	2	1	合計（4+3）%
A 問題発見能力および解決能力	8	17	2	1	89.3
B 高度専門職能の基礎となる学識	9	16	3		89.3
C チーム医療への対応	8	14	5	1	78.6
D 社会に貢献できる能力	8	17	3	1	89.3
E コミュニケーション能力	5	20	3		89.3
F 国際的な視野	3	13	11	1	57.1
G 高い倫理観	10	13	5		82.1
H 自己研鑽能力	16	11	1		96.4

(2) 博士課程修了者 (n=11)

知識・能力	評 価				合計 (4+3) %
	4	3	2	1	
A 研究計画能力と研究実践能力	5	6			100
B 研究競争力と問題処理能力	5	6			100
C 高度専門知識	5	5			90.9 (他無回答1)
D コミュニケーション能力	4	7			100
E 国際的な視野と行動力	4	6		1	90.9
F 責任性と高い倫理観	4	6	1		90.9
G 知的技術者 (実践技術者) 能力	4	7			100
H 指導者の能力	3	6	2		81.8
I 自己研鑽能力	5	6			100
J 論文作成能力	3	8			100

■教育プログラム全体の達成度

○選択肢 「4. 達成した」「3. 概ね達成した」「2. あまり達成しなかった」「1. 達成しなかった」
教育プログラムの達成度は全般的に概ね高い比率となっているものの、修士課程で「達成しなかった」と3名の回答があった。

課 程	評 価				合計 (4+3) %
	4	3	2	1	
修士課程	6	19		3	89.3
博士課程	5	5			90.9 (他無回答1)

■修了後の進路選択に関する所属研究科の教育プログラムの有用度

○選択肢 「4. 有用であった」「3. 概ね有用であった」「2. あまり有用でなかった」「1. 有用でなかった」
教育プログラムの有用度は概ね高い比率となっているものの、「あまり有用でなかった」と5名の回答があった。

課 程	評 価				合計 (4+3) %
	4	3	2	1	
修士課程	13	11	4		85.7
博士課程	6	3	1		81.8 (他無回答1)

■教育プログラムの水準

○選択肢 「4. 難しかった」「3. やや難しかった」「2. やや易しかった」「1. 易しかった」
「やや難しかった」と回答した比率が高かった。

課 程	評 価				合計 (4+3) %
	4	3	2	1	
修士課程	2	22	2	1	85.7 (他無回答1)
博士課程	2	6	2		72.7 (他無回答1)

■自由記載(件数)

	「修得すべき知識、能力」 の他に身に付けた成果	授業内容・カリキュラムの 良い点・不満な点	教育内容や大学への要望
薬学研究科	1	1	1
歯学研究科	0	0	0
看護福祉学研究科	2	5	9
心理科学研究科	0	4	1
リハビリテーション科学研究科	1	1	2

北海道医療大学の教育に関するアンケート

本調査は北海道医療大学の卒業予定者を対象とし、点検評価全学審議会が実施するアンケートです。北海道医療大学の学士課程教育の改善に役立てることを目的としています。ご協力くださいますようお願いいたします。

回答結果は、大学において適切に管理し、個人が特定できる形での公表はいたしません。

問1. あなたが卒業した学部・学科について、該当する番号に○を付けてください。

- 1 薬学部 2 歯学部 3 看護福祉学部（看護学科） 4 看護福祉学部（臨床福祉学科）
5 心理科学部（臨床心理学科） 6 心理科学部（言語聴覚療法学科）

問2 在学中、「学士課程教育において修得すべき知識・能力」がどの程度身についたと思いますか。

以下のことについて、それぞれ4段階で○を付けてください。

	4. 身についた	3. 概ね身に付いた	2. あまり身に付かなかった	1. 身に付かなかった
A 幅広い教養	4	3	2	1
B 豊かな人間性	4	3	2	1
C 専門知識、技術	4	3	2	1
D 倫理観	4	3	2	1
E 自己研鑽能力	4	3	2	1
F 協調性	4	3	2	1
G コミュニケーション能力	4	3	2	1
H 自主性・創造性	4	3	2	1
I 地域的・国際的な視野	4	3	2	1
J 語学力	4	3	2	1
K 情報処理技能能力	4	3	2	1

問3 上記以外に身に付いたと思う成果を記載してください。

問4 全学教育科目の授業内容の満足度について、それぞれ4段階で○を付けてください。

	4. 満足	3. 概ね満足	2. やや不満	1. 不満
A 教養教育科目（基礎ゼミナール、人間と思想、人間と文化等）	4	3	2	1
B 基礎教育科目（外国語、健康・運動科学、情報科学、自然科学等）	4	3	2	1
C 医療基盤教育科目（個体差健康科学、地域連携、医療倫理等）	4	3	2	1
D カリキュラム全体	4	3	2	1

問5 当該学部の専門教育科目の授業内容の満足度について、それぞれ4段階で○を付けてください。

4. 満足 3. 概ね満足 2. やや不満 1. 不満

(1) 薬学部

A 基礎薬学科目	4	3	2	1
B 医療薬学科目	4	3	2	1
C 社会薬学科目	4	3	2	1
D 卒業研究	4	3	2	1
E カリキュラム全体	4	3	2	1

(2) 歯学部

A 基礎系科目・実習	4	3	2	1
B 臨床系科目・実習	4	3	2	1
C 臨床実習	4	3	2	1
D カリキュラム全体	4	3	2	1

(3) 看護福祉学部（看護学科・臨床福祉学科）

A 領域Ⅰ（人間）科目	4	3	2	1
B 領域Ⅱ（環境）科目	4	3	2	1
C 領域Ⅲ（健康）科目	4	3	2	1
D 領域Ⅳ（実践）科目	4	3	2	1
E カリキュラム全体	4	3	2	1

(4) ①心理科学部（臨床心理学科）

A 臨床心理（基礎）科目	4	3	2	1
B 臨床心理（臨床）科目	4	3	2	1
C 臨床心理（査定・演習）科目	4	3	2	1
D カリキュラム全体	4	3	2	1

②心理科学部（言語聴覚療法学科）

A 言語聴覚学総合教育科目	4	3	2	1
B 言語聴覚学基盤教育科目	4	3	2	1
C 言語聴覚学障害学教育科目	4	3	2	1
D カリキュラム全体	4	3	2	1

問6 上記問4・問5で良い点や不満に感じた点がありましたら記載してください。

問7 あなたの履修した教育プログラムの水準について、全体的印象として該当する番号に○を付けてください。

4. 難しかった 3. やや難しかった 2. やや易しかった 1. 易しかった

問8 北海道医療大学で受けた教育のことや大学への要望することなどありましたら自由に記載してください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

北海道医療大学大学院の教育に関するアンケート

本調査は北海道医療大学大学院の修了者を対象とし、点検評価全学審議会が実施するアンケートです。北海道医療大学の大学院教育の改善に役立てることを目的としています。ご協力くださいますようお願いいたします。

回答結果は、大学において適切に管理し、個人が特定できる形での公表はいたしません。

問1 あなたが修了した研究科・専攻・課程について、該当する番号・課程専攻に○を付けてください。

- 1 薬学研究科（修士課程・博士課程） 2 歯学研究科博士課程 3 看護福祉学研究科看護学専攻（修士課程・博士課程） 4 看護福祉学研究科臨床福祉学専攻（修士課程・博士課程）
5 心理科学研究科臨床心理学専攻（修士課程・博士課程） 6 心理科学研究科言語聴覚学専攻（修士課程・博士課程） 7 リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻（修士課程）

問2 在学中、「大学院課程教育において修得すべき知識・能力」がどの程度身についたと思いますか。

以下のことについて、該当する課程にそれぞれ4段階で○を付けてください。

4. 身についた 3. 概ね身に付いた 2. あまり身に付かなかった 1. 身に付かなかった

問2-1 修士課程修了者にお尋ねします。

A 問題発見能力および解決能力	4	3	2	1
B 高度専門職能の基礎となる学識	4	3	2	1
C チーム医療への対応	4	3	2	1
D 社会に貢献できる能力	4	3	2	1
E コミュニケーション能力	4	3	2	1
F 国際的な視野	4	3	2	1
G 高い倫理観	4	3	2	1
H 自己研鑽能力	4	3	2	1

問2-2 博士課程修了者にお尋ねします。

A 研究計画能力と研究実践能力	4	3	2	1
B 研究競争力と問題処理能力	4	3	2	1
C 高度専門知識	4	3	2	1
D コミュニケーション能力	4	3	2	1
E 国際的な視野と行動力	4	3	2	1
F 責任性と高い倫理観	4	3	2	1
G 知的技術者（実践技術者）能力	4	3	2	1
H 指導者の能力	4	3	2	1

I 自己研鑽能力	4	3	2	1
J 論文作成能力	4	3	2	1

問3 上記問2以外に身に付いたと思う成果を記載してください。

問4 あなたの所属している研究科、専攻等の教育プログラム全体の達成度について、該当する番号に○を付けてください。

4. 達成した 3. 概ね達成した 2. あまり達成しなかった 1. 達成しなかった

問5 あなたの所属している研究科、専攻等の教育プログラム全体について、良い点や不満に感じた点がありましたら記載してください。

問6 あなたの修了後の進路選択に関し、所属している研究科、専攻等の教育プログラムの有用度について、該当する番号に○を付けてください。

4. 有用であった 3. 概ね有用であった 2. あまり有用でなかった 1. 有用でなかった

問7 あなたの履修した教育プログラムの水準について、全体的印象として該当する番号に○を付けてください。

4. 難しかった 3. やや難しかった 2. やや易しかった 1. 易しかった

問8 北海道医療大学で受けた教育のことや大学への要望することなどありましたら自由に記載してください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。